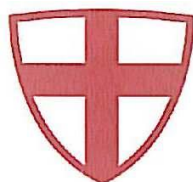


松山フライブルク会会報



2023年10月7日 フライブルク市民訪問団 五十崎風博物館

編集・発行：松山フライブルク会

まつやま国際交流センター内
〒790-0003 松山市三番町 6-4-20 コムズ1F

2024 年

会長挨拶

松山フライブルク会 会長 西村 恭子

能登半島地震の災害にあわれた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

ここ数年間、コロナウィルスの蔓延防止のために活動の制限を余儀なくされていましたが、ウィズコロナの生活をしながらではありますが平常の生活が戻りつつあります。

あまり活動ができなかった数年間にも、いろいろなことがありました。2022 年秋には、フライブルク市副市長、ウルリッヒ・フォン・キルヒバッハ氏と国際交流部長ギュンター・ブルガー氏お二方が来松され、交流会を実施することができ、新しい交流への期待が高まりました。その後すぐとなる 2023 年 3 月に、長年両市の交流を支えてこられたブルガー氏の退職の報に接したのは、記憶に新しいことです。

また、2022 年春には、フライブルク市前市長サロモン氏が、日本・ドイツの地域間交流及び相互理解の促進に寄与したとして、旭日小綬章の叙勲の榮譽を受けられ会員一同も大変喜びました。現在は、政治の道以外でのお仕事をされているそうですが、今後ますますのご活躍をお祈りしております。

昨年 10 月には「松山の秋まつり」や松山フライブルク会との交流を楽しみに、市民訪問団が来松されました。会員も滞在プログラムに参加させていただき、久しぶりにフライブルクの皆様にお会いすることができました。内子の栄えた街並み、優れた建築や日本の自然、文化を守ることの大切さを感じました。最後は双海の海、水平線にむかってみんなの平和を祈らずにはいられませんでした。残念でしたが真っ赤な夕日がジュンと音を立て沈むところはまた次回のお楽しみになり、歓迎会の会場に急ぎました。

国際交流もいろいろな切り口があると思います。身近な団体の活動から参加してみると気軽に異文化に触れることができた感想を頂きました。市民の目線で活動を今後もつづけていきたいと思っています。



クリスマスのクッキー作り 子川 明治

コムズ 3 階の調理室に老若男女 30 名程が集まった。2023 年 11 月 23 日祝日の午後であった。

西村会長の挨拶と講師のエンゲルハート夫妻の紹介があり 5 つの班に分かれ、それぞれの調理台が割り当てられクッキーづくりが始まる。

先生が材料の分量や混ぜ合わせ方を実践して見せてくださる。ドイツの器具を使いハンドルで回しながら出てきたものを適度な長さで切り、手で半月型に形作ってゆく。それをトレーにきれいに並べる。オーブンに入れ時々中の焼け具合を確認する。

会場には、サンタの衣装を着たドイツ人形が飾られ銜えたパイプから煙が吐き出されている。ドイツのクッキーの型等も展示され楽しめた。

調理室にいい匂いが充満し、どの班も焼き上がってくる。オーブンから取り出すと良い加減の焼き色に歓声上がる。

各テーブルにコーヒーや紅茶が準備され焼き上がったばかりのクッキーと、先生が作って持参されたドイツのクリスマスのケーキ‘シュトーレン’とが小皿に取り分けられる。

飲み物をいただきながら、いざ試食！！こころよい歯ごたえと口に広がる甘み。食べ出すと止まらない美味しさに舌鼓を打つ。皆さんとの会話も盛り上がる。人は美味しいものを食べると笑顔になる。

ドイツの街並みの映像も流されていて、先生からもドイツのクリスマスや正月の習慣等を話していただき、いつまでも名残は尽きないが片付けにかかる。

ドイツの文化に触れ美味しいものが食べられる、このような機会があれば是非参加したいと願っています。ナイロン袋に詰めた残りのクッキーと先生からのプレゼントのクッキーを手に帰途に着きました。

調理室五班に分かれクッキーを焼き上げたれば歓声が湧く 明治

ひと足早いクリスマス気分到了た一日を楽しむことができました。



バスツアーと交流会に参加して 伊達 栄治

10月7日19時から5年ぶりに来松したフライブルク市民訪問団との交流会があり、それに先立つバスツアーにも妻と参加しました。COVID-19の影響で会の行事も縮小されてきましたが、待ちに待った交流の幕が上がったのです。

訪問団は20代～80代までの20名、会員は15名がバスツアーに参加しました。バスに乗車するなり皆さんフレンドリーに挨拶してくれます。早朝に道後温泉駅前で行われた神輿の鉢合わせを見学されていて、掛け声も飛び交い賑やかです。

内子町の町並駐車場に到着すると八日市・護国地区等を散策します。何だかフライブルクの旧市街にしているような懐かしい気分になりました。皆さんゆっくりとした足取りで情緒溢れる町並の雰囲気を楽しんでいました。

内子座では、花道や回り舞台を歩き、地下に降りて舞台を動かす仕掛けがあった奈落を見学しました。実に興味深い。2階に上がると客席に座っていた訪問団の方が内子座ができた歴史背景や演目について尋ねてきました。パンフレットで確認しながら拙いドイツ語で説明しました。理解してくれたかどうかはわかりませんが、笑顔で「ダンケシェーン」と言ってくれたので良しとします。

五十崎風博物館では、うちわづくりを体験しました。うちわ竹にデザインされた和紙を貼り付けるのですが、結構細かな作業が必要です。皆さん苦労して作り上げたオリジナルうちわの出来栄えに満足しながら、ドライヤーで乾かしました。袋に大切にいられたので、貴重な記念品となるでしょう。

大洲市にある臥龍山荘では、臥龍院や不老庵等、匠の技術を堪能できる建物や部屋を見学しました。見学後、印象を尋ねると「美しいです」と感銘を受けた表情で答えてくれました。

双海シーサイド公園では、恋人岬にあるオブジェで楽しそうに写真を撮っている訪問団の方々の姿が海にとけ込んで印象的でした。フライブルクは海に面していないので珍しい光景であったでしょう。



9時30分に出発したバスは18時20分頃ホテル前に到着しました。交流会は訪問団20名、会員18名の参加でした。私のテーブルでは訪問団2名の方と同席となりましたが、バスツアーからの顔馴染みでありスムーズに話せました。外国語が苦手な妻は、家族の写真を見せあったり、お箸の使い方を教えたり、ジェスチャーを交えながらコミュニケーションをとっていました。注目すべきは、会が設けたドイツワインと日本酒の利き酒コーナーが皆さんから大変好評を得ていた事です。美味しいお酒を充分に堪能しました。



別れ際「フライブルクに来て下さい。私たちは皆様を歓迎しますよ」と嬉しい言葉を頂戴し、私からは「また会いましょう。中断していたドイツ語学習をまた始めます」と伝えました。次回の市民訪問団の来松やフライブルクでの再会が楽しみです。

これからも相互の市民交流を積み重ね、姉妹都市の絆が一層深まっていくことを期待します。

再会！！ 門田 眞知江

10月、秋、祭り囃しが聞こえるころ、ドイツからお客様がお見えになり、西村会長さん、事務局の皆様でお会いすることとなりました。お客様はフライブルク市と姉妹都市締結30周年を記念してフライブルク市を訪問した際お目にかかったアーサー・ヒンシュさん。彼はフライブルク松山会の第2会長さんを務められていて、日本語も堪能な爽やかな青年です。コロナ禍ではありましたが(だからこそ余計)再会をととても嬉しく思いました。

ドイツを訪問したある一日、なだらかな山を登山列車に乗って登り、頂上で美しい景色と昼食を楽しみました。持参した折り紙で駒を折り、居合わせた少女とささやかな交流をしました。そこへ車でお迎えに来てくださったのがヒンシュさんでした。西村会長と武智さんと3人でお宅におじゃましました。美しいお母さまが出迎えてくださいました。お母さまお手製のドイツのケーキとコーヒーでおもてなしを受けました。シュヴァルツバルト(黒い森)を模したチョコレートスポンジにシュヴァルツバルト名産のキルシュ(サクランボ)のケーキはとてもおいしく心に焼き付いています。お母さまもお元気とのこと何よりです。

愛媛の郷土料理を囲んでお食事と会話が弾みました。楽しい時間はあっという間に過ぎました。今後の予定は、車で愛媛を回り、東京などにも行かれるとのこと。これからも御無事で、楽しい旅を続けられるよう願ってお別れしました。

「またドイツに行きたいね！」と西村会長さんと声が重なりました。また行けますように！！



ソラリスオーナー制度 中岡 富茂

2023年度から始まりました。募集に応募したところ、運よく第1回のオーナーに当選しました。1口 5,000 円で、収穫体験などができます。

7月17日、管理していただいているシルバー人材派遣センターの大野勲明さんから、松山でソラリスが栽培されている経緯、葡萄栽培の試行錯誤、失敗談、猿の襲撃など熱く語っていただきました。

8月11日にはソラリスオーナーの豪華なプレートに感動し、約1時間の収穫体験、試食、持ち帰りなど楽しい時間になりました。葡萄は小ぶりですが、ワイン用の品種ということで、納得です。

ウテナ銘酒さんの力で、半年の時間をかけ葡萄から炭酸リキュールに変身し、24年3月15日には Zoom 飲み会が開催されました。リキュールの特徴、飲み方などの説明もあり、アルコール分4%で強くなく、酒に弱い家内も飲みやすいと喜んでました。

場所は、松山市菅沢町のレインボーハイランド内にある松山市が管理するビニールハウスです。勉強会と収穫体験の2回ともに、コムズからバスでの送迎があり至れり尽くせりです。

2024年以降もオーナー制度等で認知度を上げ、松山市とフライブルク市の絆を強くし、ワイン製造に進化させるなど、収支がとれ継続できる事業として発展させていきたいです。



ソラリス:フライブルク市で品種改良されたワイン生産用の葡萄の品種

ブルガーさん退任

姉妹都市提携以来、松山市との交流活動に尽力されたフライブルク市のギュンター・ブルガー国際部長が 2023 年 3 月に退職されました。昨年の総会の参加者のみなさんからいただいたメッセージをお送りし、大変喜んでいただきました。



フライブルクで開催された送別会の写真より



メッセージを寄せ書きにして送付

アンケ・ヴィーデマンさん就任

松山フライブルク会の皆さま
フライブルクと松山の姉妹都市交流にご尽力くださっている皆さま、フライブルク市「国際」担当部の新しい長として、自己紹介いたします。

私の名前はアンケ・ヴィーデマン、41 歳で家族とフライブルク市のリッテンヴァイラーに住んでいます。

政治と民俗学を、フライブルク、ワシントン D.C.、インドネシアで学びました。大学での勉強のあと国内外で国際関係の分野で研究し、教えてきました。また人道援助と開発協力の仕事をしたほか、フライブルク大学では国際化と持続可能性の分野における戦略的發展業務に携わりました。趣味は旅行と料理です。

交流できること、みなさまと一緒できることを楽しみにしています。

anke.wiedemann@stadt.freiburg.de oder +49 761 /201-1020

までお気軽にご連絡ください。

幸運を祈ります。



ブルガーさんの後任です

寄稿 松山市 観光・国際交流課 新良 優佳

松山市が フライブルク市 食の見本市「プラザ・クリナリア 2023」に出展しました

【出展概要】

開催日：2023年11月10日（金）～11月12日（日）

会 場：フライブルク市・メッセフライブルク（見本市会場）

内 容：旅行と美食がテーマの食品関連見本市（食品、食材、調理器具など）に松山市も出展。まつやま農産物ブランドの「ひじき」、日本酒など食文化及び観光地を紹介

試食を行ったまつやま農産物ブランド「ひじき」については、多くの方が「とてもおいしい」、「おいしい」、「意外といける」との高評価でした。「どこで買えるのか」「どのように料理するのか」との質問も多く受けました。ひじきの煮物のレシピも準備しましたが全て無くなりました。日本食はドイツでも人気が高く、健康志向も高いため、体に良いイメージの海藻類に興味を持つ方が多いそうです。

試飲を行った日本酒については、「サケ」と言うと伝わり、日本酒の知名度が高いことがうかがえました。ドイツでは梅酒のような甘いお酒も人気とのことです。

観光パンフレット等も陳列し、愛媛・松山の観光についてもPRを行いました。サイクリング及びしまなみ海道に興味を示す人々が多くいました。松山の観光名所の中では松山城の知名度が高かったです。松山を訪れたことがあるという方が何名もブースに来てくれ、とても嬉しかったです。

3日間松山市ブースを出展しましたが、現地協力員の大門氏をはじめ、独日協会フライブルク松山会の会員の方にも協力を頂きました。本当にありがとうございました。



事務局からのお知らせ

まつやま国際交流センターで、フライブルク会の事務局を担当していた敷村さんが退職しました。（とは言え、今年度は、週に何日か勤務しています）

フライブルクへの深い知識と愛情❤️を持つ敷村さんには引き続きご指導をいただきつつ、今後は向井かおりが担当します。

会員の皆さんの活動をサポートしていきますので、よろしくお願いします。

松山フライブルク会のホームページも宜しくをお願いします

<https://www.matsuyama-freiburg.com>

松山フライブルク会

検 索